

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益社団法人観世九阜会
公演団体名	公益社団法人観世九阜会

内容
<p>初めに、能楽の歴史について簡単な解説をします(配布テキスト有り)。次に能『土蜘蛛』について、小学生には絵解きの昔話で、中学生には「土蜘蛛」の歴史的背景を紹介しながら、演目を解説します。</p> <p>その後、謡曲『土蜘蛛』の一節を全員で謡い、舞の基本となる身体の構えと足の運び(スリ足)を体験し、代表の生徒 12 名程度には、能面を掛けて歩く体験をしていただくことで、極度に制約された視野で如何にして能役者が舞台上で舞っているかを感じていただきます。</p> <p>また、他の代表生徒 12 名程度には、能「土蜘蛛」の所作である「蜘蛛の糸」を投げる所作を体験、他の生徒は代表生徒が投げた蜘蛛の糸を太刀で切り払う所作を体験していただきます。</p>

タイムスケジュール (標準)
(開始時間を13:00とした場合。会場入りは 30 分前、撤収は終了 30 分後)
ワークショップ実施① 13:00～13:45
休憩 13:45～13:50
ワークショップ実施② 13:50～14:35

派遣者数
3名(主指導1名、副指導2名)

学校における事前指導
特にありません。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益社団法人観世九阜会
公演団体名	公益社団法人観世九阜会

演目
① 能「土蜘蛛」(半能形式・全2幕のうち後半の第2幕を上演) 原作/作曲/脚本等:作者未詳(典拠「平家物語」剣巻) 公演時間( 25分)
② 狂言「柿山伏」 原作/作曲/脚本等:作者未詳 公演時間( 15分)
③ ワークショップ 解説( 5分)・楽器体験(25分)・狂言所作体験(20分)・質問応答(10分) 公演時間( 100分)

派遣者数
22名

タイムスケジュール(標準)
① スタッフ・出演者到着 11:00
② 舞台設営 11:00 - 13:00 ( 120分 )
③ 生徒入場 13:00 - 13:30 ( 30分 )
④ 公演 13:30 - 15:10 ( 100分 )
⑤ 片付撤収 15:10 - 15:40 ( 30分 )
※公演開始を、13:30とした場合

実施校への協力依頼人員
可能であれば荷物の搬入時に2～3名程度

## 演目解説

### ① 能「土蜘蛛」

(前半部分) 病に臥せっている源頼光(みなものらいこう)のもとに怪しげな僧が現れる。不審な者の訪れに警戒する頼光、すると怪しげな僧は巨大な蜘蛛となって頼光めがけ蜘蛛の糸を投げかける。咄嗟に枕元に置いていた源氏重代の太刀「膝丸」を抜き蜘蛛を斬りつけると、傷を負った蜘蛛は姿を消す。

### (後半部分)

頼光に仕えている独武者(ひとりむしゃ)は、供の武士を連れて土蜘蛛の棲む塚に赴く。現れた妖怪土蜘蛛との戦い。次々に繰り出す千筋の蜘蛛の糸…しかし、ついには土蜘蛛も独武者たちによって退治される。

実際に舞台上で次から次へと撒かれる千筋の蜘蛛の糸は、小、中学生の興味関心を十分に惹きます。勧善懲悪というわかりやすい内容と、派手な演出で人気の高い演目です。

本公演では独武者と供の武士たちが土蜘蛛を退治しにゆく、後半の場面を観ていただきます。(この後半部分を上演します)

### ② 狂言「柿山伏」

畑の柿を山伏に盗み食いされた畑主が、柿の木の梢に隠れた山伏に「あれはカラスだ」「いやサルだ」といって、散々に鳴きまねをさせる。ついには「鳶だ」といわれ、山伏は木から飛んでみるが転落。足を挫いた山伏は畑主に治療を求めるが…。神通力をも持つはずの山伏が滑稽に描かれる。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

まずは能「土蜘蛛」狂言「柿山伏」を鑑賞し、終演後には、音楽の教科書に取り上げられているように、「音楽」の視点から、囃子方よる楽器の説明、実演を交え、代表者には楽器で、ほかの生徒にはそれぞれの楽器に合わせ、手拍子などで能の音楽を合奏する体験をしていただきます。

また、おおらかな笑いの芸術である狂言の表現をも全員に体験していただきます。

## 児童生徒とのふれあい

学校との協議により、給食をともにするなど、また、休憩時間には積極的に出演者が子供たちと接する機会を持ちます。

学校との協議により、場合によっては撤収の簡単な作業を演者と共に手伝っていただき、演者と触れ合う機会を設けます。